



## 知っていますか？ 市販の化学薬品等で 手製の爆発物を製造できることを

平成13年9月11日に発生した「米国同時多発テロ事件」以降、テロ情勢は厳しさを増しており、特にインターネットの普及に伴って、肥料・化学薬品等を悪用した爆発物の製造・使用事件が国内外で頻発しています。

### 爆発物原材料対策とは？

一般に広く販売されている化学薬品や肥料が爆発物の原材料として利用され、製造された爆発物は実際に海外のテロ事件で使用されています。

警察では、化学薬品や肥料を取り扱う薬局やJA、ホームセンター、肥料販売店、小売店などに協力を依頼し、不審な購入者が来店したときの早期通報や、薬品等の保管管理の徹底を呼びかけています。

爆発物原材料対策は、爆発物の製造や爆発物を使用したテロを未然に防止し、安全で安心な地域社会の実現を図ることを目的とした、官民連携のテロ対策の一つです。

### 爆発物に関する事例

#### 国外

- ・ 平成27年～フランス・パリ同時多発テロ事件
- ・ 平成28年～ベルギー・ブリュッセル連続事件

#### 国内

- ・ 平成28年～窃盗事件被疑者による爆発物取締罰則違反事件(岐阜県)
- ・ 平成29年～無職男性による爆発物製造事件(愛知県)

### 秋田中央警察署の活動

秋田中央警察署では平成21年12月、管内の薬剤師会、JA、ホームセンターなど化学薬品や肥料等を取り扱う9つの団体・事業者とともに「秋田中央警察署爆発物原材料対策ネットワーク」を設立し、テロの未然防止に向けた情報の共有を図っています。

また、各事業者を個別に訪問し、国内外のテロの情勢等について情報発信を行うとともに、爆発物原材料対策への協力を呼びかけています。

### こんなときは要注意！

- 一般的な使用量を超える大量の薬品等を購入している人
- 複数の薬品を同時に、連続して購入している人
- 薬品を購入するときの「身分確認」を嫌がる人
- 薬品等の使用目的を言わない人



テロ対策に  
御協力をお願いします

「おかしいな・・・？」と思ったら  
秋田中央警察署(835-111)へご連絡ください